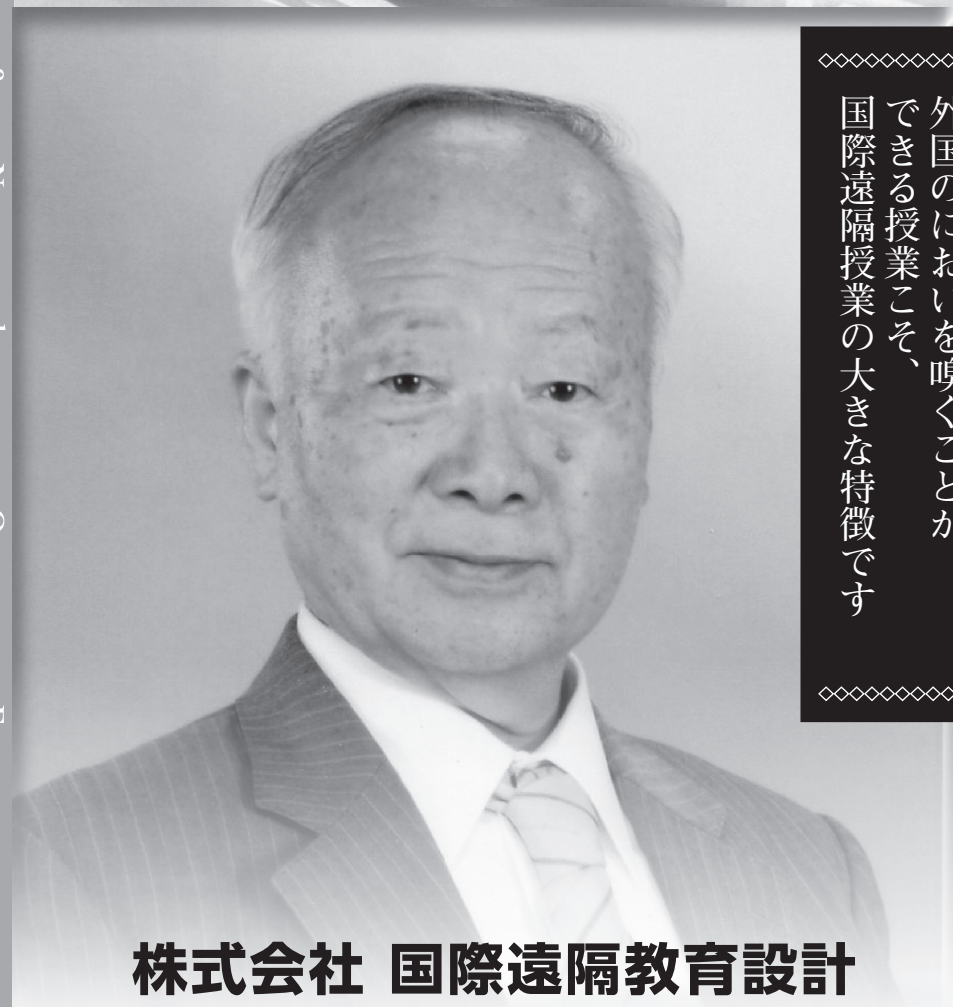


世界中の授業を誰もがどこでも 受けられるシステムを構築

次代を拓く国際遠隔教育システムのパイオニア

外国のにおいを嗅ぐことが
できる授業こそ、
国際遠隔授業の大きな特徴です



株式会社 国際遠隔教育設計

代表取締役 西澤 康夫

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、生活や仕事の様式が一変しつつある。

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、生活や仕事の様式が一変しつつある。新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、生活や仕事の様式が一変しつつある。

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、生活や仕事の様式が一変しつつある。新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、生活や仕事の様式が一変しつつある。

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、生活や仕事の様式が一変しつつある。新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、生活や仕事の様式が一変しつつある。

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、生活や仕事の様式が一変しつつある。新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、生活や仕事の様式が一変しつつある。

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、生活や仕事の様式が一変しつつある。新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、生活や仕事の様式が一変しつつある。

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、生活や仕事の様式が一変しつつある。新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、生活や仕事の様式が一変しつつある。

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、生活や仕事の様式が一変しつつある。新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、生活や仕事の様式が一変しつつある。

シドニー大学と授業交換システムを構築

ソニア・ミツアック氏の協力を得てプロジェクトが始動

兵庫県出身の西澤代表は、広島大学、同大学大学院を経て、昭和46年から岐阜大学教育学部英語教育講座を担当し、講師、助教を務め、昭和63年に教授に就任。平成14年まで勤め上げた。

「この間文部省在外研究員として、英国バーミンガム大学でシェイクスピアを研究し、平成5年には『シェイクスピアの芸術』（近代文芸社）を出版させて頂きました」

そしてもう一つ、今の国際遠隔教育設計に繋がる西澤代表の大きな取り組みとして、オーストラリアシドニー大学とともに行った授業交換システムの構築があげられる。実現に至るきっかけは岐阜県の産学共同事業プロジェクトだった。

「海外で行われている大学の授業を岐阜県下の大学にオンラインで配信しようというのがプロジェクトの全容でした」

オンライン授業の協力を得られる海外の大学を探すチームが結成され、その一員に西澤代表が選ばれた。

「岐阜大学の提携校にアプローチするなど、様々な手を尽くしましたが、当初は中々上手くいきませんでした」と振り返る。

こうした中、ある人物からオーストラリアで活動する3人の学者を紹介された。その中の一人が、後に西澤代表のパートナーともいうべき存在となる、当時シドニー大学文学部研究員を務めていたソニア・ミツアック氏だった。「ソニア氏の協力を得てプロジェクトは前に進み始めました」

平成16年に岐阜大とシドニー大の間で国際遠隔授業が実現

ソニア氏をメイン講師に国際遠隔授業の会社を設立

シドニー大学と岐阜大学は互いに情報を交換し、打ち合わせを重ねて授業交換システムの構築を図った。西澤代表は両大学の交換授業科目の選定作業などを行い、平成16年にシステム構築に成功した。

これによって西澤代表自身の担当科目である「異文化コミュニケーション論」に、シドニー大学でソニア氏が手掛ける「多文化主義」の講義を取り込み、コンソーシアムに録画授業を提供した。

「大学間の連携協定に基づく国際遠隔教育は当時世界には存在しない全く新しい取り組みでした。私たちがその第一歩を記すことができて感慨深いものがありました」と振り返る。

西澤代表はこの遠隔授業を後に国際学会で発表し、授業の概要などがアメリカの教育ジャーナルや書籍にも取り上げられ一躍脚光を浴びた。

平成21年から同23年までの3年間は、ソニア氏の授業が国際ネットワー

国際遠隔教育講座 In 岐阜 2019

受講生募集

本講座は、WUO 会議システムを導入した双方向の国際遠隔ライブ授業を行います。このシステムにより、私たちは、留学せずとも、海外の専門家による授業を受講し、かつ質疑応答や議論に参加することが可能になります。世界の知の最先端に触れ、語学力を磨き、国際感覚を身に付けたい方におすすめです。双方のライブ授業に特約の、わくわくする問題集をお楽しみください。(主催)

テーマ **オーストラリアとウクライナに学ぶ**
Studies in Australia and Ukraine

会場 岐阜市生涯学習センター 使用言語 英語 ※日本語講師も一部授業あり

中研修室又は 研修室50 (11/13-11/20) 定員 30名(予約制) ●研修室50は2階のみの使用が可能です。研修室50は1階のみの使用が可能です。

休 日 18:00-19:10(70分) 授業料 各席1,000円

Series 1 「オーストラリアに学ぶ」 Studies in Australia

Series 2 「ウクライナに学ぶ」 Studies in Ukraine

10/23 移民の歴史と多文化主義
11/13 ヨーロッパの中のウクライナ

10/30 オーストラリア英語
11/20 ウクライナの現状

11/6 戦後の日系関係史
12/4 ウクライナと日本の関係

講師: ソニア・ミツアック 国際遠隔教育設計代表
オーストラリア国立大学 人文社会学部教授
シドニー大学文学部研究員 西澤代表との共同研究員
オーストラリア国立大学 人文社会学部教授 西澤代表との共同研究員
オーストラリア国立大学 人文社会学部教授 西澤代表との共同研究員
オーストラリア国立大学 人文社会学部教授 西澤代表との共同研究員

お問い合わせ先: (株)国際遠隔教育設計
058-215-0674 058-216-0818
nichiy@gifu-u.ac.jp

留学して現地で授業を受けているかのような体験ができるソニア氏の国際遠隔授業

ク大学コンソーシアムの加盟校に配信されると共に、岐阜大学主催の市民大学講座でも配信された。「この講座は、岐阜大学の学生と一般市民の合同クラスにソニア先生の授業を提供するというものでした」

しかし、岐阜市と岐阜大学の共同で行われていた市民大学講座が終了して以降は、遠隔授業の存続自体が困難な状況に。

国際遠隔授業の創生期からずっと関わってきた西澤代表は、「何とか続けたい」と可能性を模索し、大学主導ではなく自身で取り組んでいくことを決意。「まずはソニア先生に無償での授業提供をお願いしました」

国際遠隔授業の灯を絶やさないため、西澤代表は周りの協力を得ながらあらゆる手を尽くした。そして平成28年8月に、ソニア氏をメイン講師として、国際遠隔授業を専門に行う会社、株式会社国際遠隔教育設計を立ち上げたのだ。

日本にいなから海外とじかに触れる感覚が伴う国際遠隔授業

双方向のライブ授業特有の臨場感や快い緊張が楽しめる

会社の設立以降、西澤代表が講座の企画を立ち上げ、オンライン授業を次々実施していった。授業で扱われる内容は、外国の風物や文化、言語や社会制度、習慣といったものが中心となっている。「こうした情報を単に説明するだけではなく、じかに触れる感覚が伴う授業という点が、国内で行われる遠隔授業と根本的に異なります。言い換えれば外国のにおいを嗅ぐことができる授業です。

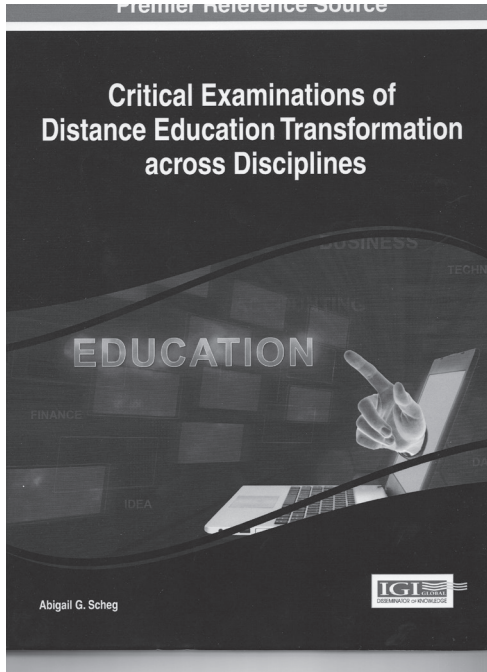
これこそ国際遠隔授業の大きな特徴といえます」

平成28年から一貫して行われてきたのが、ソニア氏のオーストラリアに関する授業だ。長年オーストラリアで生活し、オーストラリアの多文化主義を研究してきた彼女にしか知りえないオーストラリアという国の全てを学ぶことができる授業となっている。

「オーストラリアが多くの移民を受け入れ、多文化の国になったのは、実は日本が大きく関わっています。太平洋戦争で日本がオーストラリアのダーウィンやシドニーを攻撃したことで、未曾有の危機感を抱いたオーストラリアが、国力強化のため、海外から積極的に多くの人材を受け入れ、それが今に繋がっています。また、今では敵対していた日本とも友好な関係を築いています。そんな知られざるオーストラリアの歴史を紐解いていけば、国の魅力や奥深さに触れることができる。

毎回とてもワクワクした授業になります」

このような授業こそが国際遠隔授業の最大の魅力であると強調する西澤代表は、「留学をすることなく、海外の専門家の授業を受けられ、しかも質疑応答や議論を行うこともできる。双方向のライブ授業特有の臨場感や快い緊張が楽しめやす」と強調する。



『変容する遠隔教育の諸学横断的検証』
(2015): 遠隔教育の変容を諸分野横断的に
検証した諸論文収載学術参考書

国際派の人材を育てる「英語力養成講座」

受講者のレベルに合わせた授業を展開

国際遠隔授業とともに、西澤代表が力を入れているのが、「英語力養成のための授業」だ。「国際社会でビジネスを展開していくには、英語力を養ってしっかりとコミュニケーションをとることが不可欠です。日本の将来のためにも、英会話が当たり前にできる人材を育てることは非常に重要だと考えます」

西澤代表が企画する英語力養成授業では、一般人、学生、ビジネスマンなど、あらゆる人を対象に、英語スキルを高める授業を行っている。日本の学校では、基本的な英語の発音や文法を、細部にまでこだわって教える先生が中々いない。課題やテストで良い点を取るためだけの勉強になっており、きちんと英語でコミュニケーションが取れるための学習になっていないのが今の日本の現状だ。

これに対して西澤代表は、「私たちの授業では日本語と英語の決定的な違いや、語順法則に則った、英語特有の意味の伝わり方など、基本の基本が、きちんと論理的に理解できる形で英語を学習して頂きます」と説明する。

レベルによってクラスを分け、初級・中級は、英語科目の豊富な講師経験をもつ西澤代表自らが教鞭をふるい、上級クラスは外国人の講師を招いて行う。

「日本語通訳のサービスは付きますが、ソニア先生の授業は全て英語です。英語の基本と英会話をマスターして頂くことで、国際授業をより深く楽しく受けて頂くことができますようにします」

世界規模の授業交換で誰にも平等に学びの場が得られる

最終目標は、大学レベルの授業を国際化すること

会社設立から4年が経過し、国際遠隔の授業も徐々に広がりを見せてきた。現在、国際遠隔授業受講の申し込みは電話やFAXを中心に行っているが、今後はホームページから申し込みができるようにする予定だという。具体的にはランディングページを制作し、そこに授業のテーマや内容を網羅し、受けたい授業を選んで簡単に申し込みができるシステムだ。

加えて西澤代表は、「授業の形態自体も今後変えていかなければなりません」とも。



『高等教育：理論と実践』(vol.11(4), 2011):
高等教育関係の諸論文を掲載するアメリカ
の電子ジャーナルの紙媒体版

「今は10〜30人収容の会議室に受講者を集めて、モニターで授業を受けて頂く形をとっています。が、新型コロナウイルス対策で密になる環境はできるだけ避けなければなりません。そこでZoom(テレビ・Web会議ツール)などを駆使して、受講者の方々も自宅などから遠隔で授業を受けてもらう仕組みを準備しています」

さらに授業の内容に関しても、

President Profile

西澤 康夫 (にしざわ・やすお)

昭和17年2月兵庫県朝来市生まれ。昭和39年広島大学文学部卒業。同41年広島大学大学院修士課程修了。広島大学付属中・高等学校勤務を経て同46年広島大学大学院博士課程単位取得退学。岐阜大学教育学部英語教育講座勤務。講師、助教授を経て、同63年教授。この間文部省在外研究員として同61年に英国バーミンガム大学「シェイクスピア研究所」滞在。平成5年『シェイクスピアの芸術』（近代文芸社）上梓。平成14年4月から同19年3月まで岐阜大学教育学部生涯教育講座教授。平成28年8月、大学レベルの授業の国際化をめざし、株式会社国際遠隔教育設計を設立。

Corporate Information

株式会社 国際遠隔教育設計

所在地 〒500-8046 岐阜県岐阜市米屋町 24-1-702
TEL 058-215-0674 FAX 058-216-0818
URL <https://www.kokusai-enkaku-kyoiku.co.jp/>

創立 平成28年8月

資本金 200万円

業務内容 団体を対象とした出前授業（＝国際遠隔教育）の実施、一般受講生のための国際遠隔授業（セミナー）、英語力養成のための授業

■国際遠隔授業のメリット

- ・移動や滞在にかかる費用を節約しながら、自国では受けられない内容の授業に参加できるメリットがあります。
- ・海外へ留学せずとも、海外の専門家による授業を受講し、かつ質疑応答や議論に参加することが可能です。
- ・世界の知の最先端に触れ、語学力を磨き、思想を練る機会を手軽に得ることができます。大学や教育・研究機関のみならず、企業の海外赴任前の研修などにも活躍します。

「今後講師陣をもっと充実させて、バリエーション豊かな授業を実現できるようにしていきます」と西澤代表。

日本にいながらにして、さらにいえば自宅にいながらにして、海外の大学で行われている日本の大学では経験できないような授業が受けられる。他に例を見ないこうした国際遠隔授業の普及を目指す西澤代表は、「逆もまたしかりで、例えば、シドニー大学との学術連携を模索する中で生み出されたモジュール交換方式によって、ソニア先生の授業を岐阜大学に配信していただくことのお返しに、岐阜大学の国語の先生がシドニー大学に向けて、方言の授業を配信したり、音楽専攻の先生が日本各地のお祭りを紹介する授業を配信していました。これらの授業は海外の大学では絶対に受けることはできません。こうしたそれぞれの国や地域ならではのオンラインワンといえる授業を、どこの国も受けることができる世界。いわば、大学レベルの授業の国際化が最終的な私の目標です」と力を込める。

日本にいながらにして、諸外国の文化や価値観を頭だけでなく、肌で感じながら学ぶことのできる国際遠隔授業は、今後に大きな可能性を秘める魅力溢れるコンテンツだといえる。この分野のパイオニアともいえる西澤代表は、本拠地の岐阜から、国際遠隔授業の可能性を探る。

「既存のシステムへの過度の依存を離れ、オンラインでの学びの場を誰にも平等に提供することが出来れば、教育格差を世界規模でなくさせることができると考えます。世界各国が協力しあって、国際遠隔授業を、個人単位で選んで利用できる仕組みを作っていきたい」と語る西澤代表の飽くなき挑戦は続く。